

宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成30年5月28日（月）8：55～16：20		
場 所	宗像市役所 103会議室		
委 員	■ 鎌田隆徳 ■ 種田明美 ■ 山田明 ■ 川野顕太郎 ■ 時枝寛 ■ 吉田晴希 ■ 木村健次 ■ 東博子 ■ 佐藤靖成 ■ 福岡佐知子 *■出席 □欠席（五十音順、敬称略） （五十音順、敬称略）		
事務局	コミュニティ協働推進課（中野課長、中脇係長、神、元岡、大久保） 商工観光課島づくり係（小林）		

1. はじめに（8：55～9：00）

1日のスケジュール、審査方法について事務局から配布資料に基づき説明

2. 個別審査（9：00～15：15）

各申請団体から申請内容に関する説明後、審議会委員から質疑応答

① 宗像地区成年後見研究会「成年後見制度の啓発・普及と人材の育成（3－1）」 市関連部署；福祉課、高齢者支援課

《質疑等》

（質疑）宗像市では成年後見のニーズが高いようだが、後見人に対する指導ができる人は宗像市内に何人くらいいるのか。

（団体から応答）5，6名である。

（質疑）これから後見人を増やしていきたいということであるが、どうやって市民に周知していくのか。

（団体から応答）宗像市の広報紙掲載、コミュニティ・センターにチラシを掲示すること等を考えている。

（質疑）講座を受けた後に修了書を授与することが、どのようなインセンティブになるのか。

（団体から応答）講座に継続して参加される方は成年後見の知識をかなり蓄えることになる。修了書を発行し、授与することで自信になり、受講者自らが後見を実施することなどに繋がると考える。

（質疑）修了書は、成年後見人の資格を取ることに有効に働くか。

（団体から応答）成年後見人になるために特段資格をとる必要はないが、後見を依頼する際などに目安になると考える。

（質疑）NPO 法人安心サポートネット福岡が本部で宗像は支所ということだが、他に支

所があるのか。

(団体から応答) 久留米、筑紫野、糸島に支所があり、活動している。その他に本部のプロジェクトに応じて活動場所がある。宗像地区成年後見研究会は、NPO 法人安心サポートネット宗像支所のプロジェクト支援事業の一部と位置付けている。福岡にある本部の指導、監督を受けて活動している。

(質疑) 修了書は NPO 法人安心サポートネットと宗像地区成年後見研究会どちらが発行するのか。

(団体から応答) 宗像地区成年後見研究会で発行する。

② 特定非営利活動法人メイクハッピー&ピース「ピースプロジェクト (3-1)」 市関連部署；福祉課、子ども育成課 (子ども育成係)

《質疑等》

(質疑) ピースカフェ座談会の対象になっている親とは、現在学習サポートに通っている子どもたちの保護者のことか。

(団体から応答) そうである。学習サポートに来ている保護者に目を向けた事業である。

(質疑) 場所はどこで実施するのか。

(団体から応答) 座談会については赤間、赤間西のコミュニティ・センターを想定している。研修学習会は宗像市市民活動交流館の多目的ホールなどを想定している。

(質疑) 保護者の悩みを聞くことと、子どもたちの居場所を作ることどちらに重点を置いているのか。

(団体から応答) 両方大事だと考えている。保護者にも子どもにも一緒に居場所を作るつもりである。まずは保護者に向けて発信し、ネットワークづくりを行いたい。毎日学習サポートに来ている子供たちの保護者のサポートもやっていくことが本事業の趣旨である。

③ むなかた金海の会「国際交流事業姉妹都市韓国金海市との市民交流事業 (3-1)」 市関連部署；子ども育成課 (グローバル人材育成係)、秘書政策課

《質疑等》

(質疑) 一般の方も一緒に金海市に行くのか。

(団体から回答) 金海市を視察訪問したいグループ (2泊3日)、ブースの出展の手伝いを最後までしてくれるグループ (4泊5日) の募集を行い、今年は3人の参加があった。昨年は10数人の参加があった。

(質疑) 去年のブースの出展の詳細は。

(団体から応答) テントをひとつ使い、ピエロのピーさん隊が風船を作り、その奥で金海の会が参加費300円を徴収し、着物の着せ替え、髪の設定を行い、写真を撮影した。参加者には大変喜んでいただいた。

(質疑) 普段宗像市で金海市のPRを行っているか。

(団体から応答) むなかた金海の会が金海市に行くのは、伽耶祝祭^{かやしゅくさい}の一回だけであるが、伽耶祝祭で関わった団体が金海市から宗像市に来るときは連絡を取り合い、交流を行っている。普段から伽耶祝祭を成功させるために活動している。

(質疑) 宗像のPRとは、具体的にどのようなPRだったか。

(団体から応答) 宗像市と金海市が姉妹都市であるということの周知を行った。大島オルレのパンフレットなどの配布や沖ノ島の紹介を行った。

④ D&N「ガストロバー・ムナカタ(3-1)」

市関連部署；商工観光課、秘書政策課

《質疑等》

(質疑) 申込想定数は何人か。参加者に期待することはなにか。

(団体から応答) 申込想定数は、参加費が高額の為、10名ほどを想定している。参加者に期待することは、ネットワークがある方、発信力がある方に参加していただき、そこから新しい事業に繋がっていけばと考えている。

(質疑) 収支予算書の収入の欄に自己負担、寄付などと記載があるが、自分の資金ということか。

(団体から応答) 自分の資金ということである。

(質疑) 谷口氏は普段何をしているか。

(団体から応答) 広告、デザインの仕事をやっている。

(応答に質疑) 自身で事務所を構えているのか。

(団体から応答) 構えている。

(質疑) 東京から講師を招く理由は何か。

(団体から応答) 講師が以前宗像に来たことがあり、繋がりができたためである。

(応答に質疑) 講師には資格があるのか。

(団体から応答) 講師の資格の有無までは存じ上げていない。

(質疑) 委託料の内訳について説明していただきたい。

(団体より応答) ロゴ・チラシの作成(2,000部)・印刷物の製作が70,000円で、そのうち印刷代が20,000円である。当日の撮影代・編集代が60,000円、メディア告知代が60,000円、浴衣の着付け・ヘアメイク代が50,000円である。

(質疑) メディアの告知というのは具体的にどのようなものか。

(団体から応答) NPO法人福岡テンジン大学、アナバナのメルマガ等を使う。

(質疑) メディア告知にかかる60,000円は、広告掲載料ということか。

(団体から応答) NPO法人福岡テンジン大学、アナバナにそれぞれに支払う広告掲載料である。

(質疑) ロゴ製作、チラシの制作はどこに依頼する予定か。

(団体から応答) 宗像市内のJ-work、Livに依頼する予定である。

(質疑) 宗像の魅力を発信する気持ちの根源は何か。

(団体から応答) 宗像で育ったが、若いときは宗像のことが嫌いだった。市外に住んだ経験を経て、現在は宗像に魅力があるように感じるが、若い世代は宗像の魅力を感じづらいように思う。これから若い世代が魅力的だと思うものを作っていきたい。また、宗像市内にある実家が農家であったため、一次産業の大変さを知っている。労力に見合う対価を払ってもえるようにしていきたい。

(質疑) 宗像の魅力を発信することによって、市外の人に足を運んでもらいたいということか。

(団体から応答) そうである。

⑤ からふる宗像「精神障がい者、その家族、きょうだい（兄弟姉妹）への支援事業（３－２）」

市関連部署；福祉課、子ども支援課

《質疑等》

(質疑) 団体名の変更理由は。

(団体から応答) 団体のメンバー内から、「宗像げんき会（旧名）は少し年配のイメージがある。」「若い世代を呼び込むため、名前の変更をしてはどうか。」という声が上がったためである。また、人の心や思いにはいろんな色があるという理由からである。

(質疑) 連携を重視しているとあったが、具体的にどのような連携か。

(団体から応答) 様々な問題の発生に備え、精神障がいだけでなく、様々な障がいの事、病気のことを学ぶ事業を行うための、地域の事業所や活動家との連携である。

(質疑) 昨年に比べ、事業の開催回数が増えているが、何か理由があるか。

(団体から応答) 若い年代の参加者が増え、団体の気持ちが以前より前向きになったためである。

⑥ 宗像フェス CSR 実行委員会「宗像フェス eco プロジェクト 日韓環境学習交流事業（３－２）」

市関連部署；環境課、子ども育成課（グローバル人材育成係）

《質疑等》

(質疑) 企画書には大学生としか表記がないが高校生も参加するのか。

(団体から応答) 大学生を主体として高校生も参加する。

(質疑) 大学生、高校生の活動内容（スケジュール）の詳細はどうなっているか。毎日どのくらい活動するのか。

(団体から応答) 大学生、高校生は、全部の事業に参加していただく。事業は朝から夜まで行っているため、最大の活動時間は朝から夜になる。交代制にするかどうか高

校の先生と協議の上、決定する。

(質疑) 参加人数を減らし、交流をメインにするという考え方もあるのではないかな。

(団体から応答) できるだけ多くの方に参加してほしいと考えている。交流については現在の内容で十分だと考えている。

(質疑) 釜山の学生から参加費を取るのは初めてだがなぜかな。

(団体から応答) 前年度報告会で指摘があったためである。

(質疑) 韓国からの漂流物が多いということで、韓国国内で、海にごみが捨てられているという環境問題についての周知を広めていくことも大事なのではないかな。

(団体から応答) 今年度は、韓国でも有名なポケモンを使うことによって、韓国から取材の依頼が2件きており、韓国国内でも周知が広まると考えている。さらに、韓国学生との事前の会議が2件あるため、韓国国内での環境問題の周知について協議を進めていきたい。

(質疑) デザインで勾玉を出すようだが、宗像をPRすることには繋がらないかな。

(団体から応答) 勾玉から宗像をPRすることに繋がりたいという考えはある。

(質疑) 福津市からの支援はあるのかな。

(団体から応答) ない。

⑦ 自由の森遊歩道を守る会「ゆたかな3K塾事業(3-2)」

市関連部署；子ども育成課(子ども育成係)、コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(質疑) 事業を実施することによって、「子どもたちの好奇心、協調性、チャレンジ精神を養われる良い効果がある」という話があったが、事業終了後、結果をまとめたりするのか。

(団体から応答) 1年目の事業終了後、子どもたちの行動に支え合いや、助け合いが表れてきた。団体でそのような情報を蓄積していく予定である。

(意見) 自由ヶ丘コミュニティの青少年育成部会と連携を行い、自己資金を調達するのはどうか。

(団体から応答) 昨年度まで、自由ヶ丘コミュニティの青少年育成部会との連携を行っていた。今年度は、団体の思いをより参加者に伝えたい、責任の分担がないほうがやりやすいという理由から、事業の6回のうち4回は団体独自に行いたいと考え、補助金の申請を行っている。

⑧ 鐘崎の漁村文化を次代につなぐ会「漁村と都市との交流促進事業(3-3)」

市関連部署；水産振興課、商工観光課

《質疑等》

(質疑) 次年度以降の資金調達の見通しはどうなっているのかな。

(団体から応答) それぞれの事業にどれくらいの経費が必要かは把握できているため、次年度からは参加費などをあげたりして調整していく予定である。

(質疑) ファーマーズマーケットの売り上げはどうだったか。

(団体から応答) コアな商品がなく、厳しい状況であった。

(質疑) 今後出店依頼があれば行くことは可能か

(団体から応答) 漁協のPRになることであれば赤字にならない範囲で出店したいと考えている。

⑨ むなかた古道プロジェクト「むなかた古道を歩くコース作り (3-2)」

市関連部署；商工観光課、健康課、コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(質疑) 資金調達の見通しは怎么样了のか。

(団体から応答) 前年度までは500円だったが、今年度は1000円に参加費を値上げしている。また、歴史講座を6回開催し、受講費をいただくことで資金の調達を考えている。

(質疑) 岩手県への視察目的はなにか。

(団体から応答) 岩手県の県立図書館に規^き伯^{はく}玄^{げん}方^{ぼう}について書かれた貸出できない蔵書が多くあるため、現地に行って、知識を蓄え、宗像で発信したいと考えている。

(質疑) 新しいコースを作ることも考えているのか。

(団体から応答) これまでの活動で竹やぶが茂り、歩けなかったコースもあったため、今年度は団体でコースを直接確認して、別のコースを作ることも考える予定である。

⑩ むなかた自炊塾「むなかた自炊塾 (3-3)」

市関連部署；健康課、学校管理課

《質疑等》

(質疑) 食育という部分に関して具体的にどのような活動を実施しているか。

(団体から応答) 昨年度は味噌作りを行った。開催日を祝日にする事で子どもの参加を募った。その結果、参加した中学生が年下の子どもに自炊塾で学んだことを教えたいという意欲が出てきたようである。また、材料に関しても地元産のものを使っているので、その点でも食育に繋がっていると思う。

(質疑) 次年度以降の資金調達の見通しは怎么样了のか。

(団体から応答) 参加費の蓄えや、代表の比良松と私の講演料があるので、それを充てる予定である。口コミ等で参加者も一定数確保できているため、運営に関しては今後数年心配ないと思われる。

(質疑) 自炊が苦手な方たちが対象ということであったが、実際の参加状況はどうか。

(団体から応答) 自炊が得意な方、苦手な方それぞれ半分ずつくらいの参加である。それぞれの得意な分野の料理を教え合い、また、苦手な分野の料理を教えてもらうことで、楽しんで活動してもらっている。

⑪ 宗像市ノルディック・ウォーククラブ「宗像市ノルディック・ウォーククラブ(3-2)」
市関連部署；文化スポーツ課、健康課、高齢者支援課

《質疑等》

(質疑) 協賛費調達の見通しはどうなっているか。

(団体から応答) 個人的にポールの販売を行っているため、売り上げで協賛費を調達する。
また、今年度は、いせきんぐ宗像だけでなく、ユリックスでも事業を実施し、参加者増加に伴う参加費の増加を見込んでいる。

(質疑) 申請書に「ノルディック・ウォーキングを広める会」とうまく連携できなかったとあるが本当か。

(団体から応答) 本当である。似たような活動を行う団体が二つあってもよいのではないかと考えている。

(質疑) 指導員の資格は、いつ必要になるか。

(団体から応答) 講習会で、指導をする際に必要である。

(質疑) 指導資格は一度取得した場合、有効期限は永年か。

(団体から応答) そうである。しかし、年会費として毎年「(社) 全日本ノルディック・ウォーク」に 6,000 円を払う必要がある。

⑫ えがおのひろば「えがおのひろば(3-2)」
市関連部署；コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(質疑) 団体会員というのはどのような人か。

(団体から応答) 「えがおの教室」の講師の方々である。

(質疑) えがおの教室の参加者から、えがおのひろばに出展したという実績はあるのか。

(団体から応答) 昨年度のえがおの教室の参加者から、えがおのひろばに出展した方はいなかった。これから宗像のお母さんたちに積極的に出展してもらうための事業を行いたいと考えている。

(質疑) 昨年と比べると活動資金の規模が拡大されているが、自己資金調達はどのように行うか。

(団体から応答) 過去四年の活動の蓄えを利用していく。

(質疑) 小竹町の地域支援課との繋がりは何か。

(団体から応答) 直接的な繋がりはない。小竹町の地域支援課の係長から小竹町でも出展してほしいという声を頂いたということである。

- (質疑) 参加者の見込みが大きいですが、少なかった場合、運営的に大丈夫か。
- (団体から応答) 広報活動に力を入れる予定であり、計画的にやっていくため大丈夫だと考えている。小学校や幼稚園に直接PR活動を行っていく予定である。
- (質疑) 目標としてえがおの教室に参加された方が、最終的にえがおのひろばに出展するようになるということで間違いないか。
- (団体から応答) 間違いない。
- (質疑) 参加者はどのような人か。
- (団体から応答) モノ作りをしてみたい人、子連れのお母さんに参加していただいている。
- (質疑) 収支予算書の賃借料について、宗像サンリブに支払うということか。去年は2,500円だったのが、今年3,500円になっている理由は何か。
- (団体から応答) 去年は活動をする時間だけを借りていたが、今年度からは準備の時間も考慮して貸借時間を増やす為、料金が増えている。
- (質疑) 飲料費を計上した目的は何か。
- (団体から応答) 事業終了後に交流の場を設けるためである。
- (質疑) 旅費の計上理由はなにか。
- (団体から応答) 昨年まで講師に活動写真を撮ってもらうことになっていたが、難しかった。今年度からはスタッフを一人配置し、写真撮影をしてもらうためである。
- (質疑) 需用費の講習ごとの500円の詳細は何か。
- (団体から応答) 講師に活動報告の作成を講習ごとに行ってもらうため、その作成にかかる費用である。

あ. 日本赤十字九州国際看護大学国際看護領域「災害に強い大島―訪れる人に安全と優しさを―(5-1)」

市関連部署；商工観光課（元気な島づくり係）、地域安全課

《質疑等》

- (質疑) 防災のためにジオラマを制作する必要性は何か。
- (団体から応答) マップでは高低差を把握し難いため、立体にすることで外部の人でも直感的に理解できる。また、ボタンを押したら反応するようなギミックも構想中である。
- (質疑) 遠隔地の他大学と連携する意味は何か。
- (団体から応答) 防災において遠隔地と連携しておくことは重要である。一方の被災時に一方が支援できる。外国人来訪者の多い京都においては、官学連携による外国人対応のマップづくりなどが参考になる。高知においては、南海トラフ地震に向けた取り組みなどが参考になる。また、遠隔地から大島を発信する機会にもなる。
- (質疑) 学生の大島での滞在期間は。
- (団体から応答) 一週間程度の予定である。
- (質疑) 大島地区コミュニティ運営協議会との関係は。
- (団体から応答) 連携して図上訓練を実施する。この他の分野でも連携する予定である。

(質疑) 災害時の連携ということだが、相手が京都では距離が離れすぎではないか。

(団体から応答) 京都と長野の病院が連携している事例もある。また、観光都市京都の知見を学ぶ機会にもなる。

(質疑) 教職員は何人程度大島に来られるのか。

(団体から応答) 最大で 10 人の予定である。

い. 九州共立大学スポーツ学部「九州共立大学（大島プロジェクト）～筑前大島におけるスポーツを通した健康づくり及びコミュニティづくり～（５－１）」

市関連部署；商工観光課（元気な島づくり係）、文化スポーツ課、健康課、コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(意見) 大島学園の低学年との関わりがあったほうがいいのではないか。

(団体から応答) 次年度よりバレーボールを通したコミュニケーションを行う予定である。

(質疑) 大学は幼児、保育児との関わりはあるのか。

(団体から応答) 九州共立大学には、付属の幼稚園があり、体操の補助を行うなどの関わりがある。

う. 島C a f e「しまをともしヒカリ（５－１）」

市関連部署；商工観光課（元気な島づくり係）

《質疑等》

(意見) 事業の目的として人口減少の抑制、移住促進とあるが、具体的にどのように考えているか。

(団体から応答) 竹灯籠のイベントを行うことで、大島のPRを行い、大島に住んでもらう人を増やしたい。また、島に住む子どもに大島の誇りを持ってもらい、島に住み続けてもらいたいと考えている。

(質疑) 収入のうち自己資金が高額だが、会員３人でまかなうのか。

(団体から応答) 島C a f eの活動で貯めたお金を使う予定である。

(質疑) 宗像大社中津宮との連携はあるか。

(団体から応答) ある。連携を行い、今年は前年より手の込んだ竹灯籠を作ることで合意が取れている。

(質疑) ボランティアは、どういった方を想定されているか。

(団体から応答) 大学生を想定している。

(質疑) ほとんど委託料だが、これで島の繋がり是可以できるのか。

(団体から応答) デザインに費用が掛かるため委託料が大きくなっている。実際に竹を切り出し、作るのは島内の人なので、繋がり是可以できると考える。

え．九州女子大学人間生活学科「島のイベントのあり方を島の方々と考える－企画段階からの参加を探る－（５－３）」

市関連部署；商工観光課（元氣な島づくり係）

《質疑等》

（質疑）イベントを協力するにあたって、若い人の意見を取り入れていくことになると思うが、コミュニティ・センター等現地の方々との合意は取れているのか。

（団体から応答）何度か協議の場はあった。花いっぱい運動の話は一斉清掃の時期と団体の活動の時期を合わせてできれば良いと考えているが、花を植えることに関しては自治会長との話し合いが必要である。現在、話は前向きに聞いてもらっている。また、今年度は、土日や夜の話し合いに学生も積極的に参加し、学生の意見も取り入れていただきたいと考えている。若いチカラを島で活かすことが大切だと思うので、話し合いに多く参加できるように日程調整に力を入れていきたい。

お．地島小学校ＰＴＡ「『いきいき地島っ子 活動支援』事業（５－３）」

市関連部署；商工観光課（元氣な島づくり係）

《質疑等》

（意見）収支予算書によると、ＰＴＡの負担金が大きいうように思う。ほとんどが小学校の年間行事に関わる事業の為、玄海コミュニティから予算を出してもらえるよう協議してはどうか。

（団体から応答）今後検討したい。

か．おおしまお助け隊「島内環境の保全と維持・管理（５－１）」

市関連部署；商工観光課（元氣な島づくり係）、環境課

《質疑等》

（質疑）支出のうち委託料についての詳細は。

（団体から応答）会員３人以外の手伝いに来ていただく島民の方に日当をお渡ししたいと考えている。活動の趣旨に賛同してくださる方を増やし、会員を増やしていきたい。草刈をする際に多くの人手が必要という訳ではないが、手が足りないときは賛同してくれる方に声をかける予定である。大島には市から委託を受けている方がいるため、妨げにならないように活動したい。

（質疑）大島の猪の問題についてはどうか。

（団体から応答）市役所の農業振興課と島民が協力して猪駆除を行う計画がある。

き．大島学園PTA『『おおしまワク・ドキ子ども活動支援』事業（５－１）』
市関連部署；商工観光課（元気な島づくり係）

《質疑等》

（質疑）支出の報償費について、「七夕祭り灯籠づくり講師料」が計上されているが、誰に支払うことを想定しているのか。

（団体から応答）島C a f eが委託料を払う「ちかけん」を想定している。これから島C a f eと協力し、講師料を調整していく。

（質疑）支出のOTキャンプの貸し切りバス代が10万円計上されているが、詳細は。

（団体から応答）一泊二日の往復のバス代である。

（質疑）PTAの一般会計から10万を超える資金が支出されてることになっているが大丈夫か。

（団体から応答）大きな支出ではあるが、どうにかやりくりしていく。

＝ 散 会 ＝